B-27 左扁桃体海馬切除術例の記憶障害 — material-specificな症例

¹岡山大学医学部附属病院小児神経科、
²岡山大学医学部附属病院中央検査部、
³東京警察病院脳神経外科

荻野竜也¹、大塚頌子¹、畑 寛信¹、岡 鏡次¹、
 井戸由美子²、渡辺英寿³、真柳佳昭³

2歳時に重積症を含む4回の有熱時痙攣があった。6歳から腹部不快感で始まり、口部、上肢の自動症を伴う数十秒間の複雑部分発作を繰り返した。18歳頃から学業、聴いた内容、日々のエピソードを忘れやすくなった。脳波ではF7、F8 から棘波が出現し、発作時には左半球に4~7c/s θ 律動が出現した。頭部MRIで左海馬の萎縮及び及びT2WIでの信号上昇が認められた。発作時SPECTでは左側頭葉の高灌流が認められた。19歳10ヶ月に選択的左扁桃体海馬切除術を施行し発作は抑制された。術前のAmytal testで言語優位半球は左側。術後、右上1/4半盲が出現した。また、人から聴いたことや人の名前を術前以上に忘れやすくなった。術前2年間のエピソードも思い出せないことが多いが、これは術前と同程度であった。軽い喚語困難以外には失語症状や失行は認められなかった。

[心理検査]

WAIS-R (術前/術後1ヶ月半) : FIQ 91/95, VIQ 83/76, PIQ 105/124

KWCST (術前/術後1ヶ月半) : CA (第一段階 5/5)

PEM (0/0), PEN (0/0), DMS (0/2)

Benton視覚記銘力検査 (術前/術後1ヶ月半) : 正確数 10/8, 誤謬数 0/2

三宅式記銘力検査 (術前/術後1ヶ月半) : {有関係}第1回 10/3, 第2回 -/7, 第3回 -/10, {無関係}第1回 6/0, 第2回 10/4, 第3回 -/4

WMS-R (術前/術後2ヶ月) : 一般的記憶 114/89, 視覚性記憶 60/59, 言語性記憶 54/31, 注意 87/82, 遅延再生 72/59 (論理的記憶の低下が大きい)

[まとめ]

選択的左扁桃体海馬切除術後に言語性記憶が限定して障害された。側頭葉切除術に関する最近の報告では、必ずしもmaterial-specificな記憶障害は生じないとされている。しかし、両側海馬の記憶に関する機能分担には個人差があるものと思われる。

B-28 書字によって発作が誘発されるてんかんの1症例—発作時脳磁図解析を中心に—

北海道大学医学部精神科神経科

田中尚朗、中村文裕、武田洋司、出店正隆、
 榊原 聡

【はじめに】 てんかん症候群の分類の中で、特異な発作誘発様態を持つてんかんは、全般てんかんにも局在関連性てんかんにも見られるとされる。今回、われわれは書字行為が発作を誘発するてんかんを経験し、発作時の脳磁図検査を施行することができたので報告する。

【症例】 28歳女性、右手利き。母方のいとこがてんかんであるが、詳細は不明。特記すべき既往歴なし。16才頃より、字を書いていると、急に見ている視野がぶれて字が書けなくなることがあった。18才時、徹夜した翌朝に書き物をしていた際、右手がけいれんして挙上した後に意識消失し、全般性強直間代発作に至った。19才時にも同様の発作が出現し、抗てんかん薬の投与が開始された。21才以後は全般性強直間代発作は消失したが、勤務中に書字していると右手を挙上する発作が頻発したため、精査入院となった。発作間欠期脳波は、光刺激時を含めて明らかなたんかん性突発波は認められなかった。書字行為によって誘発された発作時脳波では、両側のF、C、P を中心に、左側優位の4~5Hz前後の棘徐波が一過性に出現するのに引き続き、右手を中心とする前腕のミオクロヌス様の運動発作が出現した。MRI・SPECT (123I-IMP) に特別な所見は見られなかった。Neuromag社製全頭型204チャンネル脳磁図システムを用いて脳磁図測定を施行した。安静時に明らかな突発波は認められなかったが、右手書字、左手書字、書字行為を想起することのいずれにおいても同様の発作および発作波が記録された。脳磁図上の発作波は、左側頭・中心部やや優位ながら両側広範囲に出現した。ダイポール計算を行ったところ、GOFはいずれも低値であり、一定の局在性は認められなかった。【結語】 本症例は局在関連性てんかんとする根拠に乏しく、全般てんかんと考えるのが妥当と思われた。

B